

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第4講 本を読む (3): 精読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 本の概要をつかむ

1 課題

各自で探してきた本について、次のことを議論する

- 主要なキーワードとその意味
- 章や節がどのような組み立てになっているか
- 自分にとって参考になること（あるいは面白い発見）はどれか。その根拠となるのは何か

2 書誌情報の書きかた

文献の情報（書誌情報：bibliography）をどう書くかについては、分野ごとに慣習が違う。日本語教育学研究室では、本の書誌情報はつぎのように書く。

著者（出版年）『書名』出版社.

シリーズ名や版表示などをつける必要がある場合は、書名の閉じかっこ』のあとに（）でくくって示す。

3 キーワードを抜き出す

教科書 p. 86

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

章ごとに3つ以上抜き出してみる

4 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 →キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる →セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

5 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

6 次回の予定

次回は、今日とおなじ本について、一部に注目しての「精読」をおこないます。本の中から、自分が注目したいセクションを2つ以上選んでくること。